

糸魚川市駅北大火被災者・関係者説明会 議事録（昼の部）

日 時	平成 30 年 6 月 26 日（火）10：30～11：30	場 所	ヒスイ王国館 2 階ホール
件 名	(1) 糸魚川市駅北復興まちづくり計画（第 1 回変更）について (2) ブロックごとの意見交換会の開催について (3) 防災とにぎわいの拠点施設について (4) 消防本部からのお知らせ (5) その他 ○復興まちづくり情報センターからのお知らせ		
出席者	糸魚川市	米田市長、木村副市長、藤田総務部長、見辺産業部長、山本市民部長、丸山消防長、齊藤復興推進課長、五十嵐建設課長、大嶋商工観光課長、他担当係長	
	被災者関係者	39 世帯 43 人（被災者関係者以外の一般参加者 6 人）	
	報 道	6 社（NHK 新潟放送局、テレビ新潟、建設速報社、朝日新聞社上越支局、糸魚川タイムス、新潟日報社糸魚川支局）	
会 議 要 旨			
開 会 あいさつ (米田市長)	<p>被災者・関係者説明会の開催にあたり、一言あいさつをさせていただきます。</p> <p>大火の発生から 1 年半が経過いたしました。これまでの期間が、早く感じられた方、長く感じられた方、皆さまそれぞれかと存じますが、私といたしましては、一面のガレキの山であった大火直後から、復興まちづくり計画の策定を経て、住宅や事業所の再建が進み、生活や事業の営みが再び被災地に戻りつつある現在までの道のりは、あっという間であったなと振り返っているところであります。</p> <p>本日で説明会も 17 回を数えております。ここに至るまで、被災された皆さまはじめ関係の皆さまから、被災地の復旧・復興に際し、多大なるご理解とご協力を賜っておりますことに改めて感謝を申し上げます。</p> <p>さて、被災した地域は、昔から糸魚川市のにぎわいの中心となっている場所であり、これからの復興まちづくりにおいては、住宅や事業所の早期再建の局面から、将来にわたって持続可能な、にぎわいや住みよいまちづくりに向けた局面に移っていくものと考えております。</p> <p>このため、今回から本説明会についても、より多くの方から復興まちづくりに関わりを持っていただきたいとの思いから、お知らせ版や回覧板等で幅広く開催の周知をさせていただいております。</p> <p>また、持続可能なにぎわいや住みよいまちづくりに向けては、そこで活動する人材が何より必要であり、被災された地域の皆さまはもちろんのこと、能生や青海地域、ひいては市外にも視野を広げるなかで、まちづくりを担う人材の発掘と育成に取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>人材の育成については、後ほど改めて説明申し上げますが、市といたしましても、にぎわいのある、住み続けられるまちづくりに向けて、精一杯取り組んで参りますので、皆さまからもご協力をいただきますようお願いを申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日は、よろしく願いいたします。</p>		

<p>議題（１）</p>	<p>（１）糸魚川市駅北復興まちづくり計画（第１回変更）について 説明：齊藤復興推進課長 【質疑】 無し</p>
<p>議題（２）</p>	<p>（２）ブロックごとの意見交換会の開催について 説明：齊藤復興推進課長、渡辺復興係長 【質疑】 無し</p>
<p>議題（３）</p>	<p>（３）防災とにぎわいの拠点施設について 説明：齊藤復興推進課長 【質疑】 （男性１）復興まちづくり市民会議の立上げについて、いつごろを計画していますか。また、どのような構成を考えていますか。 （齊藤復興推進課長）７月中に立ち上げたいと考えています。メンバーは、市内の若者や女性を中心に事業等で自ら活躍をしたり、まちづくりに関心を持っておられる方を中心に構成していきたいと考えています。市民会議は、糸魚川市と糸魚川商工会議所の共催で進めていきます。 （男性１）市外の間人であるが、熱意をもった人間で、会議に参画したいと言っている知り合いがいるのですが、参画は可能ですか。 （齊藤復興推進課長）基本的には市民の方だと考えています。市外からは、有識者という形でお招きしたいと考えています。 （男性１）有識者の範囲にもよりますが、ジオパークカレッジで１年間勉強をしてきて３月に１年間の研究発表をし、糸魚川の動向を考えている方です。そういう方も有識者として参画できますか。 （齊藤復興推進課長）市内で自ら活動している方々から市民会議に入っただき、その後も市内でまちづくりに直接関わっていただけのように人選したいと考えています。 （米田市長）市民を中心と考えておりますが、能力のある方はお声掛け頂きたい。その中で入っただけのかは内容を見ながら判断させていただきたいと思ひます。 （男性１）ジオパークカレッジの論文も書いていますし、また新たな提案をしたいと言っていますので、参加させてもらいたいと思ひます。 （米田市長）平成３０年度、完成はもう少し先に行くかもしれませんが、にぎわい創出広場をつくっていく。また、にぎわいの拠点を絞って絞って行く組織として会議のメンバーを選出していきたいと思ひます。</p>
<p>議題（４）</p>	<p>（４）消防本部からのお知らせ 説明：竹田消防防災課長 【質疑】 無し</p>
<p>議題（５）</p>	<p>（５）その他 （男性２）資料３のにぎわいづくりのイメージマップにある防災とにぎわいの拠</p>

<p>閉会</p>	<p>点、加賀の井さん、鶴来家さんのトライアングルの箇所は、計画として残っているのですか。</p> <p>（斉藤復興推進課長）引き続き、復興まちづくり計画に位置付けています。これについても、市民会議等で色々な皆さんのご意見を伺いながら考えていきたいと思っています。</p> <p>（男性2）イメージマップ中に回遊性を高める広場とありますが、どこから来た人が回遊する考えなのですか。市民ですか。市外からの方なのでしょうか。</p> <p>（斉藤復興推進課長）両方だと考えています。市民もそうですが、加賀の井さんや鶴来家さん等の企業、事業所を訪れた観光客の方も考えています。今のところコンセプトは和の色があるものと思っていますが、これもこれから進めていきたいと思います。</p> <p>（男性2）外からのお客さんのことを考えるとにぎわい創出広場も含め、駐車場はどのように考えていますか。イベントの時には、路上駐車もありますし、近隣のスーパーなどに迷惑がかからないよう、考えていただきたいと思います。</p> <p>（米田市長）市街地内に一か所だけ大きいものというのは難しい状況です。車が動くのではなく、人が動くのがにぎわいであると思います。市の土地や民間が所有している分も含め、分散した型でいくこととなります。この場合、どこに駐車場があるのかという案内を示してやる必要がありますので、あわせて検討していきます。</p> <p>（男性2）にぎわい創出広場の管理はどのように考えていますか。</p> <p>（斉藤復興推進課長）管理や運営は、若者を中心とする団体、意欲をもってやっていただけそうな方と話をしながら進めています。行政が、直接運営するという形よりも、まちづくりに関わりたいという人が活動する場にしていきたいと考えています。</p> <p>（男性2）設計が進んでいるようですが、キッチンスペースの規模や使い方はどのようなイメージですか。</p> <p>（斉藤復興推進課長）規模や使い方については、これから関係の団体や利用してみたいという方々と話し合いをするなかで、決めていきたいと考えています。</p> <p>（男性2）常設のキッチンを考えているなら使う人が使いやすいようにそれなりの設備がないと、施設を作って、やってみたいという人がいて、いざ保健所の許可が出ないということがないようにお願いします。商店街の状況としては、特に日曜はひどい状況です。日曜はもちろんですが、毎日稼働するような場所になってほしいと思います。</p> <p>○復興まちづくり情報センターからのお知らせ 説明：斉藤（情報センター） 【質疑】 無し</p> <p>閉会</p>
-----------	--